消化器科

【1】研修プログラムの目標と特徴

消化器疾患や糖尿病などの代謝性疾患は日常臨床で遭遇する頻度が高い疾患であり、医師として活躍してゆくには、これらの疾患についてある程度の知識や治療経験が備わっているのが望ましいと考える。当科の研修は多くの症例を経験することによって、診断から治療までの基本的な流れを理解し実践できることを目的とする。

【2】一般目標：GIO(General Instructional Objective)

消化器疾患や代謝性疾患を中心に内科的疾患の基本的知識を習熟し、さらに各種検査や治療手技の適応を理解し習得することにより、適切な診断と治療を行うことができる。また知識や技量、研修期間の長さに応じて、より高度な専門的検査や治療手技が遂行できる。

【3】行動目標：SBOs（Specific Behavioral Objectives）

1. 病歴や症状、一般身体所見から鑑別診断を列挙することができる。 【知識】
2. 診断に必要な検査をオーダーすることができる。 【知識】
3. 病歴や身体所見、検査結果を総合的かつ適切に解釈し診断することができる。 【知識・解釈】
4. 診断に基づいて適切な治療方針をたてることができる。 【知識・解釈・問題解決】
5. 内科一般としての基本的な検査、治療手技を施行することができる。 【技能】

例）経鼻胃管挿入、中心静脈穿刺、血液ガス検査、血液培養など

6. 消化器科領域の基本的な検査、治療手技を施行することができる。 【技能】

例）腹部超音波検査、イレウスチューブ挿入など

7. 消化器領域の特殊検査や治療手技について理解し介助を実施でき、さらに技量に応じて手技を実施できる。 【技能】

例）上下部消化管造影検査、エコー下肝生検、エコー下胆道ドレナージ（PTCD.PTGBD）、ラジオ波熱凝固療法(RFA)、経皮的エタノール注入療法(PEI)、肝動脈（化学）塞栓療法「TA(C)E」、上下部消化管内視鏡検査、内視鏡的消化管止血術、早期悪性腫瘍に対する粘膜切除/粘膜下層剥離術、大腸ポリープ切除術、内視鏡的食道胃静脈瘤硬化療法（EIS）、内視鏡的食道静脈瘤結紮術（EVL）、内視鏡的消化管異物摘出術、内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)、内視鏡的胆道ドレナージ（ERBD,ENBD）、内視鏡的消化管拡張術、内視鏡的消化管ステント留置術、内視鏡的胆道ステント留置術など

8. 患者やその家族に対して適切なコミュニケーションをとりつつ、病状説明をすることができる。 【知識・解釈・態度】
9. 医師や看護師、他のコメディカルスタッフと協力し患者の治療にあたることが出来る。 【知識・解釈・態度】

【4】方略(Learning Strategies)

LS	方法	該当 SBOs	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	外来研修	1～4,8,9	消化器外来 救急外来		指導医,上級医	3 時間	研修期間中 適宜
2	病棟研修	1～5,8,9	消化器病棟		指導医,上級医 看護師	2 時間	毎日
3	特殊検査 研修	5～7	内視鏡室 透視室 エコー室		指導医,上級医 看護師 臨床検査技師	3 時間	毎日

4	模型を用いたトレーニング	7（内視鏡検査）	内視鏡室	胃、大腸モデル	指導医,上級医	1時間	研修期間中適宜

【5】教育評価(Educational Evaluation)

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1～4,8,9	形成的	知識・問題解決・態度	指導医 コメディカル	研修終了時	レポート
5～7	形成的	技能	指導医	研修期間中	観察記録

【6】週間予定

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	病棟回診、外来診察 各種検査（腹部超音波検査、上下部消化管内視鏡検査、胃透視、大腸透視）				
午後	病棟回診 入院特殊検査 内視鏡フィルムカンファレンス（毎週火曜夕方） 消化器科・外科合同症例検討会（毎週水曜夕方）				

【取得可能な専門医資格】
内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、胃腸科専門医、がん治療認定医

【専門医取得への道】
『内科専門医』
別項参照

『消化器病専門医』
医師免許取得後、最短7年目に資格試験受験可能
1・2年目：当院での初期臨床研修
3年目：認定内科医後期研修（当科もしくは当院内科系診療科）
4年目～6年目：消化器病専門医研修（当科）
7年目：消化器病専門医資格試験
※4年目以降から専門医申請までに内科認定医試験に受験し合格していること
※3年目の認定内科医後期研修開始までに消化器病学会に入会していること
※消化器病学会に入会してから専門医申請するまでの間に、学会が主催する総会ポストグラデュエイトコース，支部教育講演会，ＪＤＤＷが主催するＪＤＤＷ教育講演のいずれかに1回以上の出席しておくこと
※専門医資格を取得する前に他施設へ移動となった場合、当科での研修期間（内容）は引き継がれます。また逆に他施設から当科に移動隣った場合も、それまでの研修期間(内容）は引き継がれます。

＜参考資料：日本消化器病学会専門医制度規則より抜粋＞
専門医認定を申請する者は，次の条件を全て満たすことを要する．
1. 日本国の医師免許証を有し，医師としての人格及び見識を備えていること．
2. 継続4年以上本学会の会員であること．
3. 会員として本学会が主催する総会ポストグラデュエイトコース，支部教育講演会，ＪＤＤＷが主催するＪＤＤＷ教育講演のいずれかに1回以上の出席があること．但し，半日単位の総会ポストグラデュエイトコース，支部教育講演会，JDDW 教育講演は2回以上の出席があること．
4. 申請時において認定内科医または総合内科専門医，外科専門医または外科認定登録医，放射線科専門医，小児科専門医のいずれかの資格を有すること．

5.認定内科医資格取得に必要な所定の内科臨床研修修了の後 3 年以上，外科専門医予備試験受験資格に必要な所定の外科臨床研修修了の後 2 年以上，放射線科専門医資格取得に必要な所定の放射線科臨床研修修了の後 2 年以上，あるいは小児科専門医資格取得に必要な所定の小児科臨床研修修了の後 2 年以上，本規則により認定される認定施設もしくは関連施設において臨床研修を修了していること.

『消化器内視鏡専門医』
医師免許取得後、最短 7 年目に資格試験受験可能
1・2 年目：当院での初期臨床研修
3 年目～6 年目：消化器内視鏡専門医研修（当科）
7 年目：消化器内視鏡専門医資格試験
※4 年目以降から消化器内視鏡専門医試験申請までに内科認定医試験に受験し合格していること
※2 年目の 6 月末日までに消化器内視鏡学会に入会していること
※学会が企画する総会、地方会、セミナー等への出席が規定以上あること（詳細は学会専門医制度を参照）
※専門医資格を取得する前に他施設へ移動となった場合、当科での研修期間（内容）は引き継がれます。また逆に他施設から当科に移動隣った場合も、それまでの研修期間（内容）は引き継がれます。
＜参考資料：日本消化器内視鏡学会専門医制度規則より抜粋＞
専門医の認定基準・申請資格は次のとおりとする。
1. 日本国の医師免許証を有すること。
2. 申請年度の 6 月 30 日を基準として、5 年以上継続本学会会員であること。
3. 本学会が認定した指導施設において 5 年以上研修し、所定の技能および経験をもっていること。
4. 申請時において認定内科医または総合内科専門医、外科専門医または外科認定登録医、放射線科専門医、小児科専門医のいずれかの資格を有すること。

『胃腸科専門医』
医師免許取得後、最短 7 年目に資格試験受験可能
1・2 年目：当院での初期臨床研修
3 年目～6 年目：胃腸科専門医研修（当科）
7 年目：胃腸科専門医資格試験
※4 年目以降から胃腸科専門医申請までに基本領域学会（内科学会、外科学会、消化器病学会など）の専門医あるいは認定医試験を受験し合格していること
※申請までに日本消化管学会に入会、かつ教育集会または教育講演会に出席していること
※専門医資格を取得する前に他施設へ移動となった場合、当科での研修期間（内容）は引き継がれます。また逆に他施設から当科に移動隣った場合も、それまでの研修期間（内容）は引き継がれます。
＜参考資料：日本消化管学会胃腸科専門医制度規則より抜粋＞
専門医の認定を申請できる者は下記の通りとする。
1. 日本国の医師免許証を有すること。
2. 日本消化管学会会員であること。
3. 細則に定める基本領域学会の専門医あるいは認定医の資格を有すること。
4. 会員として本学会が主催する教育集会または教育講演会のいずれかに 1 回以上の出席があること。
5. 基本領域学会専門医（あるいは認定医）に認定された後、基本領域学会の研修年限を含めて 6 年以上、このうち少なくとも本規程により認定される認定施設において 1 年以上の臨床研修を終了していること。

『癌治療認定医』
医師免許取得後、最短 5 年目に資格試験受験可能
1・2 年目：当院での初期臨床研修
3 年目、4 年目：がん治療認定医研修（当科）
5 年目：がん治療認定医資格試験
※がん診療についての学会発表 2 件以上、論文発表 1 件以上があること
※がん治療認定医機構主催の教育セミナーや緩和ケア講習会、機構が定めた各学会の総会大会などに出席していること
※4 年目に内科認定医試験に受験し合格していること
＜参考資料：日本癌治療認定医機構＞
（1） 日本国の医師免許証を有すること。
（2） 所属する基本領域の学会の認定医又は専門医、あるいは日本口腔外科学会の専門医の資格を有すること。
（3） 本機構の定める認定研修施設において、本機構の定める『研修カリキュラム』に基づくがん治療研修（通算 2 年以上のフルタイム研修、ただし医師国家試験合格後 2 年間の初期基盤診療科研修期間を除く）を修了し、指導責任者による証明がなされていること。 担当医としてがん治療を実施したがん患者（入院・外来は問わない）のうち 20 例（予備を含め 25 例まで申請可）の症例一覧を提出する。
4）審査申請時までの 5 年間に下記の業績を有すること。
① 学会発表
「がん診療」についての業績 2 件（予備を含め 5 件まで申請可）
② 論文発表
「がん診療」についての業績 1 件（予備を含め 3 件まで申請可）
（5） 本機構が開催する教育セミナーに参加し、認定試験に合格していること。
（6）申請時までの 5 年間に下記学術単位（がん治療認定医機構開催の教育セミナー、緩和ケア研修会、機構が認めた各学会総会大会など）を合計で 20 単位以上取得していること。
7） 「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した緩和ケア研修会を修了していること。

【7】指導責任者および指導医、上級医

指導責任者：菅野 記豊
研修指導医、上級医：横沢 聡、小川 千恵子、荒井 壮、本田 純也、小岩井 明信、佐野 晃俊

指導医及び上級医	役職	卒業年	主な資格など	臨床研修指導医
管野 記豊（かんののりあつ）	消化器科長	1992 年	日本消化器病学会消化器病専門医、東北支部評議員 日本肝臓学会肝臓専門医、東部会評議員 日本内科学会認定内科医・指導医 東北大学医学部消化器内科臨床教授、医学博士	○
横沢 聡（よこさわ さとし）	医療研修科長 兼内視鏡科長	2001 年	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・東北支部評議員 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本癌治療認定機構認定がん治療認定医 日本消化管学会胃腸科認定医、専門医、暫定指導医 日本ヘリコバクター学会 H.Pylori（ピロリ菌）感染症認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医、指導医、医学博士	○
小川千恵子（おがわ ちえこ）	内科医長	2003 年	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医	○

荒井　壮 （あらい　たかし）	消化器科医長	2004 年	日本内科学会認定内科医 医学博士	○
本田　純也 （ほんだ　じゅんや）	消化器科医長	2008 年	日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本消化器病学会消化器病専門医、医学博士	○
小岩井明信 （こいわいあきのぶ）	消化器科医長	2012 年	日本内科学会認定内科医	
佐野　晃俊 （さの　あきとし）	医師	2013 年		

【8】2016 年実績

上部内視鏡検査	2766
食道・胃EUS	59
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術）	1
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	3
食道狭窄拡張術	21
食道ステント留置術	8
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	13
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	11
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術・粘膜下層剥離術）	13
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ粘膜切除術）	3
内視鏡的胃，十二指腸ポリープ・粘膜切除術	4
内視鏡的消化管止血術	50
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	15
内視鏡的胃、十二指腸狭窄拡張術	5
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術）	23
小腸結腸内視鏡的止血術	17
小腸・結腸狭窄部拡張術	1
下部内視鏡検査	1297
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	1409
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	11
下部消化管ステント留置術	13
注腸検査	7
肝TAE（TACE）	12
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（2センチメートル以内のもの）	5
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（2センチメートルを超えるもの）	7
肝生検	44
内視鏡的胆道ステント留置術	23
内視鏡的胆道拡張術	12
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	28
内視鏡的乳頭切開術（胆道砕石術を伴うもの）	0
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	0
胆嚢外瘻造設術	11
経皮的胆管ドレナージ術	5
経皮経肝胆管ステント挿入術	1
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ENBD）	12
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	3
内視鏡的膵管ステント留置術	10
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	35
腹部エコー	1428
造影超音波	14